

地区住民全員が体感し 緊急時に動ける訓練を

私たち西仲地区は防災訓練などを行う際、昔からとても集まりがよく、みんな防災に対して関心を持っている地区です。

現在も消防署に勤務している地元住民に指導を仰ぎながら避難訓練、救助訓練、消火訓練などを行っています。5月末には、夜間に巨大地震が起こったことを想定した訓練を予定しています。大人から子供まで全員が参加するもので、街灯や家庭の電気も消した真っ暗の状況の中、懐中電灯1本で集会所に集合するという訓練です。

訓練以外でも、それぞれの家庭全員の血液型、普段寝ている場所、救助のために必要な道具を持っている人などを記した台帳も作成して緊急時に備えています。

私は、3月に東日本を襲った地震を受けて、西仲地区住民全員が助かるためには、自主防災組織がもっともっとしっかりと機能するものにならなければならない、地元は地元で守らなければならないと痛感しました。

今後も、自主防災組織の組織力、そして地元のつながりをより強固なものにしていきたいと考えています。



西仲自主防災組織会長
善家 貞文さん
64歳 農業

天災を目の当たりにして 早急な意識改革を

私たち北川地区の自主防災組織は設立して3年が経ちました。常々何かしないといけないという意識はありましたが、何の活動もできていないという現状です。しかし、3月の東北地方の震災のニュースを見て、「南海地震に備えて今すぐにも行動しないとイケない」と本気で考えるようになりました。

私が今考えているのは旧小学校区である西部地区(北川・成川・水分・牛野川)が合同の訓練を行うことです。西部は土砂崩れなどがあると、孤立する恐れも十分に考えられる地形にあります。そうすると、自力で難を乗り越えなければならないのです。そういう時に一番力を発揮するのは住民のコミュニティー、すなわち「地域力」であると私は考えます。だから、元々つながりの強い西部がさらに一つになって行動することが求められると考えています。

今後は、それぞれの区長や組長に働きかけて、合同の訓練、防災マップの作成や防災に対する統一した意識付けなど、西部地区をあげて自主防災活動を行っていきます。



北川自主防災組織会長
宇都宮治久さん
58歳 会社員

今こそ行動を起こす時

いつ、どのように、どれくらいの規模で襲ってくるかわからない。それが自然災害です。

自然の力に対して、人間は無力かもしれません。しかし、諦めるわけにはいきません。私たちには「地域のつながり」という大きな武器があるのです。一人一人の力を結集して、それを盾に「避けられない敵」に立ち向かわなければなりません。

行政、消防、警察などの「公助」も、大規模な自然災害を受けると機能しなくなることが考えられます。これから命を守る上で大切になるのは、「自助」「共助」が大前提であるという「意識改革」をすることです。

東日本の甚大な被害。あの出来事が風化する前に、また風化させないためにも、今、地域が立ち上がり行動する時です。時期尚早ということはありません。むしろ遅すぎるくらいかもしれないのです。

生まれ育ったふるさと、家族、財産を守るため、今まさに立ち上がる時なのです。

誰かがではなく、そこに住む全員で。